

1 本校のOJT

- OJTは「**教育目標の具現化と構築化を図る**」と位置付ける。
- **学年会中心**のOJTを進める。
好ましい学年，学級作りを基盤として，学力向上や生徒指導，学年・学校行事等へ職員が協力して取り組む。さらにPDCAサイクルを活用しながら指導力の向上に努める。
- **教師の授業力向上**のOJTを進める。
道徳授業実践を通して個々の教師の授業力向上を目指し，授業づくりの研修を全教員で取り組む。
- **同僚性を育む**OJTを進める。
教員のスキルアップを図り，常にコミュニケーションを取りながら協調し，組織に生かす。



授業検討会から

ファシリテーターの働きかけ

- 学び合い，高め合う**人間関係作りを基盤**として個々の教師力の向上，発展を目指す。
- **主任層を中心**にミドルリーダーがファシリテーターの役割を担い，組織の活性化を目指す。
- **教師のスキルアップ**を図り，教育力の向上を目指す。

学び合いの意識化

- **日々の教育活動**でのOJT
 - ・ 教師同士が日々の教育活動で学びあい，**教え合う関係を構築**する。
 - ・ 業務の効率から，正確に推進できるOJTを**実践**し，**教育目標を具現化し達成**できるよう教師個々が邁進する。
- **教育改善シートとの関連**として
 - ・ 教師の授業力を向上させ生徒の学力向上へ反映させるためOJTの効果を高める。
 - ・ 学校重点目標の達成のために，より効果的な取組みや能力の向上を目指す。

2 OJT 実践

OJT キーワード

学び合う OJT

- 職員会議でコンプライアンス研修，授業のポイント
 - ・ 毎月の職員会議でコンプライアンス研修として全教職員で研修・演習にあたる。
 - ・ 事例を基に問題点，改善点，関係法規と関連させて実施する。
- ミニ OJT の推進
 - ・ 日常の職員間での学び合いを促進する環境づくりを進める。
 - ・ コンピュータの活用力の向上，校内掲示物の効果的活用など。

OJT キーワード

高め合う OJT

- 授業力向上のために各学年毎に道徳の授業研究（年間 4 回）を実施する。
 - ・ 「心豊かに生き生きとした行動のできる育成」の伸長。
全ての教育活動の基礎となる心の育成のために指導力向上を目指す。
- 現職教育としての学び合いを進める。 → 個別生徒理解推進，特別支援教育理解へ
 - ・ 例) 「発達障害の理解とその支援方法」の研修 講師を招いての研修会

OJT キーワード

同僚性を育む OJT

- 学年会を中心とした OJT の推進を図る。
 - ・ 学年主任をファシリテーターとして実施。
 - ・ 例) 問題行動生徒への対応 学年行事の企画・立案・実施，
家庭との連絡調整，協力依頼 問題解決能力の育成。
- いつでもどこでも型 OJT
 - ・ 例) 生徒指導問題についてその対応のあり方
日常での機会を捉え，教科を超えた教員同士の授業参観
視聴覚機器の効果的運用のあり方
個々の学級における清掃活動や短学活の運営のあり方
部活動指導の工夫と技量向上のあり方
保護者や地域社会との連携のあり方

3 OJT 実践の振り返り

OJT 実践内容

「道徳研究授業」

「心豊かに生き生きと行動できる生徒の育成」をテーマとして年間4回の道徳の研究授業を実施。

- 1回目 7月 3学年 研究授業
- 2回目 11月 1学年 模擬授業型研究授業
- 3回目 11月 1学年 研究授業 ワークショップ形式分科会
- 4回目 1月 2学年 研究授業

授業を通して学び得たこと

- ①生徒との信頼関係の構築
- ②確かな学力育成する専門性
- ③絶えず学び続ける資質能力の向上



道徳研究授業

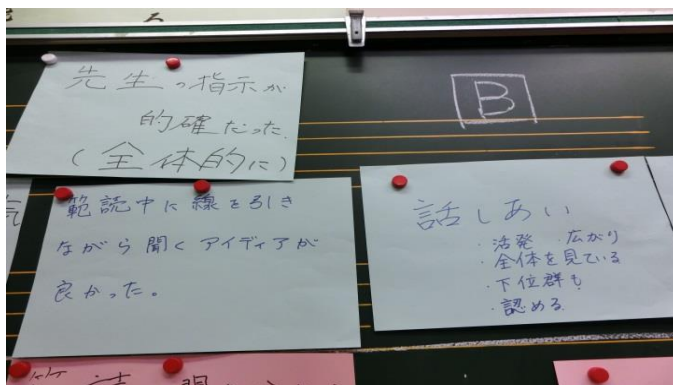
振り返り方法と留意点

ワークショップ形式授業検討会

- ・道徳の価値項目へのアプローチについて教師それぞれの考えが確認できた。
- ・道徳のOJTにあたり、その手法や学級雰囲気作りがたいへん参考になった。
- ・道徳的の実践力の育成方法を確認できた。



授業検討会



授業検討会でのカード

- ・他の教師の考えや、手法を学習することにより自己の授業のあり方を意識化して、振り返りの良い教材となった。
- ・それぞれの学年が学年教員集団として道徳の授業のあり方を検討し実践し、評価する方法を検討していくことにより学年としてのOJTが構築できた。

4 OJTに取り組んで

成 果

○ 学校組織で取り組む OJT

OJTを推進するにあたり、**意図的**、**計画的**、**継続的に取り組む必要性**がある。この点において学校のOJTの土壌作りが構築できたことは大きな成果があった。今後の継続的取り組みに大きな期待が持てるところである。

経験のないことを解決する手立てとして、先輩教員に広く教えを請い、個々の教員が主体的に自身の能力開発に着手していくことは、担い手としてのやりがいと**学校組織機能の充実**に繋がることが確認できた。

今後に向けて

- OJTを通して学びえた成果や課題について、**次年度へ継続できるよう OJT 研修計画**を作り生かせるようにしたい。
- また、個人の教育改善シートを基に、より力となった点や更に努力が必要な点について具体的に整理をして研修計画に反映したい。
- そして、**OJTにおける効果を学校全体で共有**することによって学校組織力の向上に繋げることができるように邁進していきたい。